

1. 連結セグメント別 2004年度 売上高・損益増減比較 (対前年同期実績)

(単位:億円)

	2003年度 上期実績	2004年度 上期実績	増減	増減率	メモ
売上高	1,644	1,901	257	15.6%	化学品部門 メタノール・アンモニア系
化学品部門	953	1,123	169	17.8%	メタノール価格上昇を受けての価格転嫁で増収。ホルホル: 引続き中国などの需要伸長によるアウトバランスで売上増。黒字化。 MMA系: 透明樹脂向け堅調。原料価格高騰を受け、販売価格上昇。黒字化目前に。
機能製品部門	612	687	76	12.4%	キシレン系 原料キシレン価格高騰。PXは需要堅調で販売価格上昇。予想外の市況上昇により副産粗ベンゼン販売による原価控除増。
その他部門・消去	79	91	12	15.2%	メチルシラン、フタル酸は値上げ努力で原料価格高騰による利益減少幅を抑える 特殊芳香族は一部在庫調整の影響があったものの、ほぼ計画線で推移。
営業利益	45	139	94	209.8%	売上高増分のうち2割弱はAGIC子会社化および会計処理の変更によるもの。 工業薬品系
化学品部門	6	44	38	689.1%	過酸化水素は新規工業用途・無塩素漂白用途などで需要増。価格水準も維持。ヒドロジンはJ/Vに移管。
機能製品部門	35	89	54	155.0%	機能製品部門 エレクトロニクス向け化学品(超純過水、ELMクリンなど)は輸出・半導体・液晶・プリント配線板などの好調を受け、堅調。 エプソラは電気電子、自動車向け需要堅調で増収。原料価格高騰に伴う価格転嫁も。TPACは前年の増設の結果、増益。
その他部門・消去	4	5	1	25.9%	プリント配線板はデジタル機器関連需要好調で増収。生産体制再編効果もあり改善。LEシートも需要は伸長。 エーゼリスは国内不振を輸出で補いほぼ予想通り。情報機能材不振継続。カーボン膜生産子会社フォトリソ社を9月末で合併。
営業外損益	39	34	5	13.3%	
持分法投資損益	60	54	6	9.6%	持分法投資損益 相対的にメタノール価格が低いため、対前年同期比では海外メタノール2社は減益。アクリエスを含めJSPグループは順調。
金融収支	8	7	1	-	(持分法投資利益の多くはメタノール2社によるもの)
その他 営業外損益	12	13	1	-	
経常利益	84	173	89	105.3%	
特別利益	3	3	1	20.8%	
特別損失	14	26	12	85.3%	2004年度: 電子材料事業構造改善費用(11億円)、情報機能材構造改善費用(8億円)など 2003年度: 機能製品関係の設備廃棄損8億円など
税金等調整前当期純利益	73	149	76	103.4%	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	10	26	16	149.8%	
少数株主利益または損失	3	6	2	65.3%	
中間(当期)純利益	60	118	58	97.5%	

2. 連結 2004年度上期末 貸借対照表(対 前年度末実績)

(単位:億円)

	2003年度 期末	2004年度 上期末	増減	増減率	メモ
現金及び預金	246	255	9	3.6%	
受取手形・売掛金	970	1,128	158	16.2%	増加理由：売上高の増加など
有価証券	70	9	60	86.6%	減少理由：運用債の減少
棚卸資産	494	509	15	3.1%	
その他流動資産	138	138	0	0.0%	
< 流動資産 計 >	1,918	2,039	121	6.3%	
有形固定資産	1,619	1,572	47	2.9%	減少理由：設備投資(72億) < 減価償却(96億)・除却・売却
無形固定資産	36	35	1	2.8%	
投資等	1,179	1,207	29	2.5%	増加理由：有価証券の時価評価益増、持分法会社の持分剰余金増。
< 固定資産 計 >	2,833	2,815	19	0.7%	
資産合計	4,751	4,854	102	2.2%	
支払手形・買掛金	690	738	48	6.9%	
有利子負債	1,843	1,784	59	3.2%	MGC 23億円減、連結子会社 35億円減
その他負債	349	350	1	0.2%	
< 負債 計 >	2,883	2,872	10	0.4%	
< 少数株主持分 >	63	68	4	6.9%	
資本金・資本剰余金	775	775	0	0	
利益剰余金	1,046	1,145	99	9.4%	中間純利益118億円。
土地再評価差額金	2	2	0	0	
その他有価証券評価差額金	91	96	6	6.1%	
為替換算調整勘定	71	67	4	6.0%	
自己株式	38	39	0	0.6%	
< 資本の部 >	1,805	1,914	108	6.0%	株主資本比率 当期末 39.4% 1.4ポイント上昇。
負債及び資本合計	4,751	4,854	102	2.2%	

3. 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

	2003年度 中間期	2004年度 中間期	増減	メモ (2004年度上期の主な内訳)
現金・現金同等物 期首残高	337	304	32	
営業活動によるCF	62	63	2	税前利益149億円、うち持分法利益54億円 償却費96億円、運転資金増加 124億円 (売上増など)
投資活動によるCF	30	35	4	設備資金収支 65億円
財務活動によるCF	105	83	22	借入金・社債減少 63億円、配当金支払 20億円。
為替換算差異 他	2	5	7	
現金・現金同等物 純増減額	76	50	27	
連結追加・除外による増減	0	-	0	
現金・現金同等物 期末残高	260	255	6	

4. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

	02年度 実績	03年度 実績	04年度 実績・予想	増減		増減率	
				02	03	03	04
設備投資額	158	125	190	33	65	20.8%	52.0%
(うち上期)	87	75	72	12	3	13.7%	
減価償却費	201	195	200	6	5	3.0%	2.5%
(うち上期)	99	98	96	1	2	1.4%	
研究開発費	115	105	105	10	0	8.7%	0.0%
(うち上期)	58	55	55	3	0	5.2%	
人員 (年度末時点)	4,729人	4,537人	4,381人	192人	156人	4.1%	3.4%

	02年度 実績	03年度 実績	04年度 予想	増減	
				02	03
一株当り 当期利益	1.0円	22.9円	40.0円	23.9円	17.1円
ROA (総資産経常利益率)	0.6%	4.0%	6.4%	3.4pts	2.4pts
ROE (株主資本経常利益率)	1.7%	11.0%	16.2%	9.3pts	5.2pts
配当額 (うち上期)	3.0円 0.0円	4.0円 0.0円	6.0円 2.5円	1.0円 0.0円	2.0円 2.5円

メモ(人員): 02 '03 人員減少は主に単体と日本サーキットによる。子会社化など基準変更による増加 30人。
03 '04 人員減少は主に単体による。

5. 経営環境

	2002年度実績		2003年度実績		2004年度実績・予想		メモ
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	
メタノール市況 (\$/MT)	130~140	200~210	250~260	230~240	220~240	250~270	

	2002年度実績		2003年度実績		2004年度実績・予想		メモ
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
原料キシレン 公示価格(円/kg)	39	43	45	47	59	72	
為替 (円/\$)	122		113		108		2002年度 上期:123円、下期:121円 2003年度 上期:118円、下期:108円 2004年度 上期:110円、下期:105円

銅張積層板/BTレジン等 売上高指数推移	2000年度		2001年度		2002年度		メモ	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	100	75.8	48.2	50.9	53.2	52.7		2000年度上期を100とした場合の指数表示
	2003年度		2004年度実績・予想					
上期	下期	上期	下期					
	64.3	74.4	86.5	77.9				

6. 連結 セグメント別 2004年度 売上高・損益増減比較 (対前年実績)

(単位: 億円)

	2003年度 通期実績	2004年度 通期予想	年間増減 03 04	メモ
売上高	3,407	3,840	433	03年度為替レート 113円/\$、04年度為替レート 108円/\$
化学品部門	1,951	2,280	329	化学品部門 メノール : メノール市況は年明け以降軟化要因はあるがほぼ横引きというのが現実的。MMA下期定修で上期に比べ収益低下 ・アモニア系 するも期初想定は上回る。ポリオールは白物家電向け塗料など、中国を中心とした需要が強く下期も引き続き好調。 キリン系 : 原料キリン価格は直近の高水準を維持。PX-PTAは下期も引き続き堅調。ベンゼン価格も高値維持。
機能製品部門	1,282	1,363	81	MX対応米国稼働予定。特殊芳香族は在庫調整の終了を下期見込む。
その他部門・消去	174	197	23	売上高増分のうち2割弱はAGIC子会社化、会計処理の変更によるもの。
営業利益	149	265	116	工業薬品系 : 過酸化水素・水処理剤は季節要因で下期は若干マイナス。今期よりビドラン事業のJ/V移管効果。
化学品部門	33	85	52	機能製品部門 上期堅調だったエレクトロニクス関連化学品は一部需要に弱り。但し期初想定は上回る見込み。
機能製品部門	101	165	64	PC、POM等は需要堅調で数量は見込みどおり。売上高には原料価格上昇分の転嫁を見込む。
その他部門・消去	16	15	1	上期好調の電子材料は年明け以降の需要に不透明感。下期売上減少も受注残あり大きくは崩れず。期初想定並みを見込む。 E-ジリスはほぼ当初予想通り。情報機能材は依然需要低調。カーボン膜は下期、低水準ながらも当初予想並みの回復を見込む。
営業外損益				
持分法投資損益	92	93	1	メノール市況の高値推移によりメノール関連持分法損益は当初想定よりプラス。通期では前年度並みの水準。
その他 営業外損益	52	53	1	エンブラ系・キリン系会社も期初予想と異なり前年度に対し若干の増益。
経常利益	189	305	116	
特別損益	39	55	16	2004年度 新鉦床探鉦費 12億円、電材事業構造改善費用 14億円、情報機能材構造改善費用 18億円など 2003年度 電子材料事業構造改善費用 24億円、エンブラ生産集約に伴う設備廃棄損 6億円 など
税金等調整前当期純利益	150	250	100	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	36	54	18	
少数株主利益または損失	8	11	3	
当期純利益	106	185	79	

7. 単体 セグメント別 2004年度 売上高・損益増減比較(対前年実績)

(単位:億円)

	2003年度		2004年度		増減		メモ																																																						
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想	上期比較	通期比較																																																							
売上高	1,155	2,406	1,368	2,750	213	344	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">売上高要因分析(上期実績比較)</th> <th colspan="3">対前年度</th> </tr> <tr> <th></th> <th>03年度上期</th> <th>04年度上期</th> <th>増減</th> <th>数量要因</th> <th>価格要因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学品部門</td> <td>727</td> <td>854</td> <td>127</td> <td>74</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>メタ・アンモ系</td> <td>326</td> <td>362</td> <td>36</td> <td>33</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>キシレン系</td> <td>320</td> <td>411</td> <td>91</td> <td>40</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>その他工業薬品</td> <td>81</td> <td>81</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>機能製品部門</td> <td>416</td> <td>506</td> <td>90</td> <td>76</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>その他部門</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,155</td> <td>1,368</td> <td>213</td> <td>145</td> <td>67</td> </tr> </tbody> </table>	売上高要因分析(上期実績比較)			対前年度				03年度上期	04年度上期	増減	数量要因	価格要因	化学品部門	727	854	127	74	53	メタ・アンモ系	326	362	36	33	2	キシレン系	320	411	91	40	52	その他工業薬品	81	81	0	1	1	機能製品部門	416	506	90	76	15	その他部門	12	7	5	5	0	合計	1,155	1,368	213	145	67
売上高要因分析(上期実績比較)			対前年度																																																										
	03年度上期	04年度上期	増減	数量要因	価格要因																																																								
化学品部門	727	854	127	74	53																																																								
メタ・アンモ系	326	362	36	33	2																																																								
キシレン系	320	411	91	40	52																																																								
その他工業薬品	81	81	0	1	1																																																								
機能製品部門	416	506	90	76	15																																																								
その他部門	12	7	5	5	0																																																								
合計	1,155	1,368	213	145	67																																																								
化学品部門	727	1,495	854	1,726	127	231																																																							
機能製品部門	416	885	507	998	90	113																																																							
その他部門	12	26	7	25	5	1																																																							
営業利益	3	56	68	140	66	84																																																							
営業外損益	1	4	7	15	6	11																																																							
経常利益	4	60	75	155	71	95																																																							
特別損益	3	22	21	50	18	28																																																							
税引前当期純利益	1	38	53	105	53	67																																																							
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	2	10	7	20	9	10																																																							
当期純利益	3	27	47	85	44	58																																																							

8. 連結カンパニー別 2004年度 売上高・損益増減比較 (対前年実績)

(単位:億円)

	03年度		04年度		増減		協創2005計画		メモ
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想	上期比較	通期比較	03年度	04年度	
売上高	1,644	3,407	1,901	3,840	257	433	3,280	3,490	天然ガス系化学品カンパニー メタール市況は年明け以降軟化要因はあるがほぼ横引きというのが現実的な見方。 MMA下期定修で上期に比べ収益低下するも期初想定は上回る。 ポリオールは白物家電向け塗料など、中国を中心とした需要が強く、下期も引き続き好調。
天然ガス系化学品カンパニー	441	920	497	1,028	55	108	933	959	
芳香族化学品カンパニー	395	824	510	1,045	115	221	808	838	芳香族化学品カンパニー 原料モノリン価格は直近の高水準を維持。 PX-PTAは下期も引き続き堅調。ベンゼン価格も高値維持。MX+10/米国稼働予定。 特殊芳香族は在庫調整の終了を下期見込む。 売上高増分のうち2割弱はAGIC子会社化、会計方処理変更によるもの。
機能化学品カンパニー	389	807	442	889	53	82	781	863	
特殊機能材カンパニー	244	507	278	553	34	46	468	539	
コーポレート等	175	349	174	326	1	23	290	291	機能化学品カンパニー 過酸化水素・水処理剤は季節要因で下期は若干マイナス。 上期堅調だったILK+10/20関連化学品は一部需要に一服感。但し期初想定は上回る見込み。 PC、POM等は需要堅調で数量は見込みどおり。売上高には原料価格上昇分の転嫁を見込む。
営業利益	45	149	139	265	94	116	90	160	
天然ガス系化学品カンパニー	6	16	27	51	33	35	14	31	特殊機能材カンパニー 上期好調の電子材料は年明け以降の需要に不透明感。下期は売上減少するが現状受注残もあり大きくは崩れず。期初想定並みを見込む。 E-ジリスはほぼ当初予想通りの推移。 情報機能材は依然需要低調。下期が-ネット膜は低水準ながらも当初予想並みの回復を見込む。
芳香族化学品カンパニー	21	48	34	63	14	16	43	54	
機能化学品カンパニー	10	40	34	73	24	33	49	70	
特殊機能材カンパニー	17	50	49	91	33	41	5	23	
コーポレート等	3	4	6	13	10	9	21	18	
(持分法投資利益)	(60)	(92)	(54)	(93)	(6)	(1)	(77)	(49)	